

マザー・テレサ 真鍋 和子

めあて (四の場面)

テレサが「孤児(こじ)の家」をスタートさせたのはなぜか考え

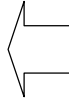
赤んぼうの様子

- ・ ごみの中にすてられていた。
- ・ やせ細ったしわだらけの赤んぼう
- ・ 泣く力もないほど、ぐったり
- ・ 町にはまだたくさんいる。

見捨てられている。命をかかえられない。「やせた」よりももっとやせてしまっている。このままでは死んでしまう。

テレサの考え

- ・ かわいそうな子どもたちを育てる施設(しせつ)を作ろう。
- ・ この世の中に生まれてきた子どもは、神様と同じ。
- ・ 多過ぎるとか、必要でないことなんか、決してない。



孤児の家

- ・ 連れてこられた子どもは、どんなにかろうと、決して断られることがなかった。

子どもは、神様。とても大切に思っている。どんな子どもも助けた。

テレサは、子どもは神様と同じだと考え、大切に思い、どんな子どもも助ける「孤児の家」をスタートさせた。

5 / 11 時間目 指導略案 ワークシート カバー

活動のねらい

テレサが子どもたちのためにしたことを読み取らせる。(四の場面)

1 赤んぼうの様子を読み取る。

赤んぼうの様子が分かる叙述に、黄線を引く。「やせ細った」などの言語表現をとらえさせ、赤んぼうの様子を想像する。

2 テレサがしたことや考えを叙述から探し、読み取る。

(発問) 町にいっぱいいる赤んぼうや子どもたちを育てる孤児の家をスタートさせたのはなぜでしょう。

テレサの言葉や心内語に、赤線を引く。

どんな子どもでも、神様と同じだと思い、大切にしているテレサの考えを、根拠を出しながら話し合う。

3 孤児の家の様子について読み取る。

どんなにかかろうと、決して断られることがなかったことから、テレサの強い思いを読み取っていく。

【評価】テレサの行動や言葉、心内語に表れているテレサの思いを読み取っている。

4 ブックカバーを書き、本時の学習のまとめをする。

四の場面のあらすじ、心に残ったテレサの言葉や行動、自分の考えを短くまとめて書く。

色分けして叙述に線を引く。(赤んぼうの様子...黄線、テレサの考え...赤線)